

年	組	名前
---	---	----

大分市横尾の二目川自治区では、市内では珍しくなった昔ながらの伝統行事「虫送り」を今に受け継いでいる。今年も25日夜、子供会を中心に地元住民がたいまつを手手に地区内を歩いた。

心一つに「虫送り」

大分市横尾の二目川自治区

軽快な笛と太鼓の音に先導され、火の付いたたいまつを持ち、1時間近くかけて地区内を回った。大分市横尾の二目川自治区



虫送りは田の稲に発生する害虫をたいまつで誘導し焼却する行事。大分銀行ドームに程近い同区は近年、宅地化が進み、昔に比べると田は激減しているが、地域の触れ合いの場として自治会主催で続けている。以前

田の稲を守る伝統行事

大分市横尾の二目川自治区では、昔ながらの伝統行事「虫送り」を今に受け継いでいます。

①「虫送り」は何のためにするのでしょうか。

150人、交流も楽しむ



虫送りには約150人が参加。軽快な笛と太鼓の音に先導され、地元の水分神社を出発。火の付いたたいまつを持ち、1時間近くかけて地区内を回った。校区の大東中学校生徒12人もボランティアで参加し、太鼓持ちを務めた。初めて参加した明治小2年の石井悠雅君(8)「顔写真」は「たいまつがちょっと重いけど、火を持ってみんなで歩くのが楽しい」と笑顔。母親の千恵さん(39)も「昔の行事を体験できる機会はなかなかない。子どもにとっていい経験になったと思う」と喜んでい

自治委員の小野善寛さん(69)は「多くの人に参加してもらい、住民同士コミュニケーションを図ることで、心と心をつないでもらえればそれが一番」と話した。

(2015年7月31日朝刊10面)

②「虫送り」は虫のどのような習性を利用していますか。

③ほかに知っている夏の伝統行事を発表しよう。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....